

## 出願書類の記入方法について

- ・記入にあたっては、パソコンで作成しても、手書きでもどちらでも差し支えない。手書きの場合は、ボールペンを使用して記入する。
- ・自筆署名と記載がある項目については、手書きで名前を記入する。
- ・間違えた場合は、修正液や修正テープは使用せず、二重線を引いて修正し、訂正印を押す。
- ・書類を封入する前に別紙の出願書類チェック表を確認し、精神科認定看護師制度ガイドブック令和4年改訂版の34ページを参考にして書類を封入する。
- ・年号の記入は和暦・西暦のどちらでも差し支えない、様式ごとに統一する（混在して記載しないこと）。参考資料の和暦・西暦早見表を確認するとよい。
- ・出願書類の提出先は、出願要項を確認する。また、郵送の際は、配達状況を確認できるレターパックなどを利用し、各自で配達状況を確認すること。

目次	ページ
様式1について	2ページ
様式2-1について	5ページ
様式2-2について	12ページ
参考資料 和暦・西暦早見表	14ページ

### 【お問い合わせ先】

一般社団法人日本精神科看護協会 認定事業担当  
〒108-0075 東京都港区港南 2-12-33 品川キャナルビル7階  
TEL : 03-5796-7033 FAX : 03-5796-7034

## 様式 1 について

- 具体的な記入方法を記入例 1 に示す。
- 6 か月以内に撮影したカラー写真を指定の場所に貼付する。
- 「会員種別」欄の「会員番号」は、日本精神科看護協会の会員番号を記入する。入会手続き中のため会員番号がわからない場合は、会員番号の欄に「入会手続き中」と記入し、入会していない場合は、非会員に○印をつける。
- 「職歴」欄は、看護師免許取得後の勤務期間を記入する。
- 「学歴」欄や「職歴」欄が書ききれない場合は、様式 1 を追加して書ききれなかった項目を記載する。この場合は、様式 1 を記載した枚数分を提出する（記入例 2 参照）。
- 第 17 回精神科認定看護師受講資格審査は 8 ヶ月コースのみの募集であるので、「コースの選択」欄は、8 ヶ月コースを選択する。

# 記入例1

(様式1)

## 精神科認定看護師受講資格審査出願書

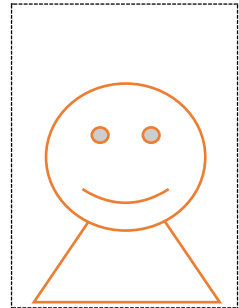
日本精神科看護協会 会長 殿

私は、精神科認定看護師教育課程を受講するために  
受講資格審査に出願をいたします。

\*協会記入欄

受験番号

受付日



令和●年9月1日現在

ふりがな	にっせいかん はなこ	男	生年月日	昭和51年5月15日(42)才
出願者氏名	(自筆署名) 日精看 花子	女	会員種別	会員番号(000001)・非会員
看護師 免許証	登録年月日	登録番号		
	平成20年4月10日	000000001		
学 歴	●●年3月	東京都立○○高等学校 卒業		
	平成20年3月	○○看護専門学校 卒業		
	年 月	以上		
	年 月			
職 歴	勤務期間	施設名		
	平成20年4月～平成23年3月	医療法人○○会○○病院		
	平成23年4月～現在	○○総合病院		
	年 月～年 月	以上		
	年 月～年 月			
	年 月～年 月			
	合 計	10年5カ月		
コースの 選 択	志望するコースに○印をつけて下さい。 ○8カ月コース ・ 2年コース			
所属施設名	○○総合病院	8カ月コースのみ 募集しています		
所属施設 住 所	〒000-0000 東京都港区港南○-○-○	連絡先(施設・自宅・○携帯) TEL 090(0000)●●●●		
結果通知先 住 所	(○施設・自宅)〒 同上			

\* 記入例を赤字で示しています \* 年号の記入は和暦・西暦どちらかに統一してください

## 記入例2 学歴・職歴が書ききれない場合

\*様式1を追加し、氏名、日付、書ききれなかった項目を記入して

提出してください。

(様式1)

精神科認定看護師受講資格審査出願書

日本精神科看護協会 会長 殿

私は、精神科認定看護師教育課程を受講するために  
受講資格審査に出願をいたします。

\*協会記入欄

受験番号

受付日

2枚目以降は  
写真は不要

令和●年9月1日現在

ふりがな		男	生年月日	年 月 日 ( ) 才
出願者氏名	(自筆署名) <b>必ず記入</b>	女	会員種別	会員番号 ( )、非会員
看護師免許証	登録年月日			
	年 月 日			
学歴	年 月	高等学校	卒業	
	年 月			
	年 月			
	年 月			
	年 月			
職歴	勤務期間	施設名		
	平成○年4月 ~ 平成○年12月	医療法人○○会JPNA病院		
	平成○年1月 ~ 平成○年3月	○○精神科医療センター		
	平成○年4月 ~ 現在	訪問看護ステーション○○○		
	年 月 ~ 年 月	以上		
	年 月 ~ 年 月			
	合計	○年○カ月		
コースの選択	志望するコースに○印をつけて下さい。 8カ月コース ・ 2年コース			
所属施設名				
所属施設住所	〒	連絡先 (施設・自宅・携帯) TEL		
結果通知先住所	(施設・自宅) 〒			

書ききれなかった項目を記入

\*記入例を赤字で示しています \*年号の記入は和暦・西暦のどちらかに統一してください

## 様式 2 - 1 について

- ・様式 2 - 1 は、出願要件に関する勤務状況を証明する書類である。様式 1 に記載した全ての職歴についての勤務証明は必要ないが、出願要件を満たす年数以上の証明を受けること。複数の施設の証明が必要な場合は、施設毎に様式 2 - 1 を作成する。
- ・提出する時は、記載者によって厳封し、開封されたものは無効とする（厳封の方法は精神科認定看護師制度ガイドブック令和 4 年改訂版 34 ページ参照）。

### 1. 記載者について

#### 【現在の職場の勤務で出願要件を満たしている場合】

- ・現在の職場の直属の上司に「看護実践力」「役割」「指導力」欄について記載を依頼する。以前に勤務していた職場に記載を依頼する必要はない。
- ・具体的な記入方法を記入例 3 に示す。

#### 【現在の職場の勤務だけで出願要件を満たさない場合】

- ・「現在の職場」と「以前に勤務していた職場」を合わせて出願要件を満たしていることを証明する必要がある。そのため、現在の職場と以前に勤務していた職場により記載された様式 2 - 1 を提出する。
- ・以前に勤務していた職場の上司、または、管理者に様式 2 - 1 の記載を依頼する場合、「看護実務経験」欄の記載は必須であるが、「活動実績」欄の記載は必ずしも必要ない。
- ・具体的な記入方法を記入例 4 に示す。

### 様式 2 - 1 受講資格審査 出願者勤務状況証明書をご記載いただく方へ

この書類は、一般社団法人日本精神科看護協会の精神科認定看護師教育課程の入学試験である受講資格審査に関する書類です。本教育課程の受講にあたっては、「看護師の資格取得後通算 5 年以上の看護実務に従事し、そのうち通算 3 年以上は精神科看護実務に従事していること」という要件を定めています。つきましては、出願者の「看護実務経験」と「活動実績」について必要事項をご記入いただき、厳封をしてください。なお、出願者がすでにご退職等で在籍していない場合は、「看護実務経験」のみの記入で差し支えありません。記入にあたり、ご不明な点がございましたら、下記へお問い合わせください。

それでは、どうぞ、よろしく願いいたします。

#### 【お問い合わせ先】

一般社団法人日本精神科看護協会  
認定事業担当  
〒108-0075 東京都港区港南 2-12-33 品川チャンネルビル 7 階  
TEL : 03-5796-7033 FAX : 03-5796-7034

## 2. 精神科看護実務について

- ・精神科看護実務に該当する勤務経験を下表に例示する。この場合は、「看護実務経験」欄の「精神科関連」の項目に記載する。これ以外の場合は、「他科」の項目に記載する。

### 【精神科看護実務に該当する勤務経験の例】

- ・精神科病院、精神科病棟、精神科外来における勤務
- ・精神障がい者や認知症患者に対する訪問看護
- ・認知症患者に対する一般病棟での看護や施設における勤務
- ・精神障害、知的障害、発達障害等の施設や事業所における勤務
- ・精神保健福祉センター、保健所、教育機関、一般企業等における精神保健に関する業務

## 3. 実務経験の計算方法

- ・「看護実務経験」欄は、勤務期間（入職時に看護師免許を取得していない場合は、看護師免許取得後の勤務期間）、年数を記載する。入職した月から1ヵ月として計算する。
- ・連続6ヵ月以上の研修、進学、産休・育休及び病欠などの休職、教育職、看護実務のない企業などの在職の期間は実務経験に含まない（記入例5参照）。

### 【精神科医療機関以外に勤務している場合】

- ・「診療科名・部門の特性」欄に直近1年間に担当した精神疾患が主病名の利用者数等も記入する（記入例6）。

### 【非常勤や派遣社員の場合】

- ・雇用形態が非常勤の場合、「看護実務経験」欄の勤務期間は実年数を記載し、「年数」欄は実務勤務時間150時間を1ヵ月とみなして換算した合計年数を記載する。また、「看護実践力」欄に1ヵ月あたりの勤務時間数と実年数も記載すること（記入例7）。
- ・派遣社員の場合の雇用形態は、非常勤とする（非常勤に○印をつけること）。記載者は、派遣された職場の看護管理者により証明を受けてよい。また、派遣元の上司が様式2-1を記載する場合は、派遣された勤務先毎に書類を作成する。
- ・派遣社員の場合の実務経験の計算方法は、雇用形態が非常勤の場合と同様とし、「看護実践力」欄に1ヵ月あたりの勤務時間数と実年数も記載すること。

## 記入例3 現在の職場の上司が記入する場合

\* 全ての項目を記入してください。なお、現在の職場で出願要件を満たす場合は、以前の勤務先の証明書を提出する必要はありません。

(様式2-1)

### 受講資格審査 出願者勤務状況証明書

出願者氏名	日精看 花子(この欄は、ご自身で記入しても差し支えありません)
-------	---------------------------------

上記の受講資格審査の出願者について、下記の内容を記載し、提出していただきます。なお、記載は直属の上司とし、記載者により厳封してください。

様式2-1は、勤務施設毎に記載する。勤務施設名は、勤務状況の証明を受ける施設名を記載すること。

勤務施設名		●●総合病院			
看護実務経験	精神科 関連	勤務期間	年数	診療科名・部門の特性	雇用形態
		自平成●年4月 至平成●年3月	5年 0カ月	整形外科病棟40床、認知症のある患者を常時1～2名程度担当した。	○常勤 ○非常勤
	自平成●年4月 至現在	年 5カ月	40床の精神科の急性期病棟、主に統合失調症、気分障害の患者が入院。	○常勤 ○非常勤	
	他科	自平成●年4月 至平成●年3月	2年 0カ月	消化器内科病棟40床	○常勤
		自 年 月 至 年 月	年 カ月		
合計	7年 5カ月		(精神科看護の実務経験年数 5年 5カ月)		
活動実績	看護実践力	職場での看護実践について記入してください。 看護実践においては、○○が優れている。			
	役割	職場で担っている役割や役職等について記入してください。 積極的に○○について取り組み、主に○○や○○などの係を担当している。			
	指導力	上記に関して、どのような指導力を発揮しているのかを記入してください。 ○○について積極的に指導を行っている。			

病棟の診療科名や入院患者の疾患名が分かるように記載すること

上記に相違ありません。

令和●年●月●日

施設名 ●●総合病院

記載責任者 役職名 精神科病棟師長

氏名 東京 太郎

(自筆署名または押印)

印

\* 直属の上司により記載し、記載者により厳封すること(開封無効)。

\* 記入例を赤字で示しています \* 年号の記入は和暦・西暦どちらかに統一してください

## 記入例4 以前の勤務先に記載を依頼する場合

\* 青枠内の看護実務経験欄と記載責任者は、必ず記載してください。

(様式2-1)

受講資格審査 出願者勤務状況証明書

出願者氏名	この欄は、ご自身で記入しても差し支えありません
-------	-------------------------

上記の受講資格審査の出願者について、下記の内容に関してご回答を頂きますようお願い申し上げます。  
なお、記載は直属の上司とし、記載者により厳封をお願いいたします。

勤務施設名		医療法人●●会JPNA病院			
看護実務経験	精神科 関連	勤務期間	年数	診療科名・部門の特性	雇用形態
		自平成●年 4月 至平成●年 12月	3年 8カ月	精神科救急入院料病棟 50床 男女混合閉鎖病棟で隔離室5床 行動制限最小化委員会の係を担当	○常勤 非常勤
	他科	自 年 月 至 年 月	年 カ月		常勤 非常勤
		自 年 月 至 年 月	年 カ月		常勤 非常勤
		自 年 月 至 年 月	年 カ月		常勤 非常勤
	合計	3年 8カ月 (精神科看護の実務経験年数 3年 8カ月)			
活動実績	看護実践力				
	役割				
	指導力				

上記に相違ありません。

令和●年 ●月 ●日

施設名 医療法人●●会JPNA病院

記載責任者 役職名 看護部長

氏名 品川 看子

(自筆署名または押印)



\* 直属の上司により記載し、記載者により厳封すること (開封無効)。

\* 記入例を赤字で示しています \* 年号の記入は和暦・西暦のどちらかに統一してください



## 記入例5 産休・育休・休職などにより連続6ヵ月以上、職場を離れている期間がある場合

\*例として、平成25年4月から平成26年3月まで職場を離れていた場合を示しています。

(様式2-1)

受講資格審査 出願者勤務状況証明書

出願者氏名	<b>この欄は、ご自身で記入しても差し支えありません</b>
-------	--------------------------------

上記の受講資格審査の出願者について、下記  
 なお、記載は直属の上司とし、記載者により

**職場を離れている期間がある場合は  
 その期間を除いた勤務期間を記入**

申し上げます。

勤務施設名		医療法人●●会JPNA病			
看護 実務 経験	精神科 関連	勤務期間	年数	診療科名・部門の特性	雇用形態
		自平成20年4月 至平成25年3月	5年 0ヵ月	精神科救急入院料病棟50床、措置 入院や医療保護入院が多い。	○常勤 非常勤
	自平成26年4月 至 現在	4年 5ヵ月	精神科デイケア、生活習慣病のある 患者を担当。	○常勤 非常勤	
	他科	自 年 月 至 年 月	年 ヵ月		常勤 非常勤
		自 年 月 至 年 月	年 ヵ月		常勤 非常勤
	合計	9年 5ヵ月 (精神科看護の実務経験年数 9年 5ヵ月)			
活動 実績	看護 実践力	<b>職場での看護実践について記入してください。</b>			
	役割	<b>職場で担っている役割や役職等について記入してください。</b>			
	指導力	<b>上記に関して、どのような指導力を発揮しているのかを記入してください。</b>			

上記に相違ありません。

令和●●年●●月●●日

施設名 医療法人●●会JPNA病院

記載責任者 役職名 看護部長

氏名 品川 看子 (印)

(自筆署名または押印)

\*直属の上司により記載し、記載者により厳封すること(開封無効)。

**\*記入例を赤字で示しています \*年号の記入は和暦・西暦のどちらかに統一してください**

## 記入例6 精神科医療機関以外に勤務している場合

(様式2-1)

受講資格審査 出願者勤務状況証明書

出願者氏名	この欄は、ご自身で記入しても差し支えありません
-------	-------------------------

上記の受講資格審査の出願者について、下記の内容に関してご回答いただきますようお願いいたします。  
 なお、記載は直属の上司とし、記載者により厳封をお願いいたします。

対象者の疾患名や  
 人数などを  
 具体的に記入

勤務施設名		医療法人●●会JPNA病院 訪問看護ステーション			
看護実務経験	精神科 関連	勤務期間	年数	診療科名・部門の特性	雇用形態
		自平成●年12月 至 現在	7年 9カ月	年間をとおして、統合失調症や認知症の利用者10件/月を訪問。	○常勤 非常勤
	他科	自 年 月 至 年 月	年 カ月		常勤 非常勤
		自 年 月 至 年 月	年 カ月		常勤 非常勤
		自 年 月 至 年 月	年 カ月		常勤 非常勤
合計	7年 9カ月 (精神科看護の実務経験年数 7年 9カ月)				
活動実績	看護実践力	職場での看護実践について記入してください。			
	役割	職場で担っている役割や役職等について記入してください。			
	指導力	上記に関して、どのような指導力を発揮しているのかを記入してください。			

上記に相違ありません。

令和●年●月●日

施設名 医療法人●●会JPNA病院 訪問看護ステーション

記載責任者 役職名 所長

氏名 訪問 看子 (印)

(自筆署名または押印)

\* 直属の上司により記載し、記載者により厳封すること (開封無効)。

\* 記入例を赤字で示しています \* 年号の記入は和暦・西暦のどちらかに統一してください

# 記入例7 非常勤や派遣社員の場合

(様式2-1)

受講資格審査 出願者勤務状況証明書

出願者氏名	<b>この欄は、ご自身で記入しても差し支えありません</b>
-------	--------------------------------

上記の受講資格審査の出願者について、下記の内容に関する記載は、直轄の上司とし、記載者により厳封をお願いします。

**実務勤務時間 150 時間を1ヶ月とみなして換算した年数を記入**

勤務施設名		〇〇〇精神科医療センター			
看護実務経	精神科 関連	勤務期間	年数	診療科名・部門の特性	雇用形態
		自平成●年4月 至現在	5年 カ月	精神科の身体合併症病棟40床。認知症や統合失調症の患者が多い。	常勤 ○非常勤
		自 年 月 至 年	年		常勤 非常勤
		自 年 月 至 年 月	年 月		常勤 非常勤
		自 年 月 至 年 月	年 月		常勤 非常勤
合計		5年 0カ月	(精神科看護の実務経験年数 5年 0カ月)		
実務能力	1ヵ月あたりの勤務時間数	<b>1ヵ月あたりの勤務時間数と実年数、看護実践について記入してください。</b> 上記の勤務期間における勤務時間数は、75時間/月であり、10年間、パート勤務をしている。看護実践においては、〇〇が優れている。			
勤務実績	役割	<b>職場で担っている役割や役職等について記入してください。</b> 主に〇〇や〇〇などの業務を担当している。			
	指導力	<b>上記に関して、どのような指導力を発揮しているのかを記入してください。</b> 〇〇において、指導力を発揮している。			

**勤務期間は、実年数を記入**

**実務勤務時間 150 時間を1ヶ月とみなして換算し、合計年数を記入**

**1ヶ月あたりの勤務時間数を記入して下さい**

上記に相違ありません。

令和●年●月●日

施設名 〇〇〇精神科医療センター

記載責任者 役職名 看護部長

氏名 東京 花子 (印)

(自筆署名または押印)

\* 直轄の上司により記載し、記載者により厳封すること (開封無効)。

**\* 記入例を赤字で示しています \* 年号の記入は和暦・西暦のどちらかに統一してください**

## 様式 2 - 2 について

- ・事例報告は下表に示した例を参考に、直近の1年間にかかわった多様な課題をもつ対象者に実践した看護を記載する。ただし、精神科医療機関以外の勤務の場合は直近の1年間に限定しない。また、精神科看護を必要としている方への看護であれば、精神疾患患者に限定しない。

### 多様な課題をもつ対象者の定義とその例

#### 【多様な課題をもつ対象者の定義】

精神科看護における多様な課題をもつ対象者とは、精神症状や精神障害により治療上あるいは社会生活上の困難を生じている対象者のことである。下記の①に加えて②、③、④のいずれかの問題がある。

- ①精神症状・疾患：精神医療が関与する必要がある精神症状・疾患がある。
- ②パーソナリティ障害、知的障害、発達障害：不適応を起こす程度のこれらの障害がある。
- ③身体疾患：精神症状あるいは社会生活に影響を及ぼす程度の身体疾患がある。
- ④心理社会的、環境的問題：家族、教育、仕事、住居、経済的、保健医療機関の利用等の問題がある。

#### 【入院されている方の場合の例】

- ・症状が重篤なケース（自傷他害の恐れが切迫している、薬物療法の効果が乏しいなど）
- ・発達段階を含めたアセスメントが必要なケース
- ・身体的なケアが必要なケース（身体合併症、薬物療法の副作用）
- ・家族の協力を得ることが困難なケース（家族がいない、本人と家族の関係性が悪化しているなど）
- ・患者との関係性を築くことが困難なケース（対象者の攻撃性が強い、スタッフが陰性感情を抱いているなど） など

#### 【地域で生活をされている方の場合の例】

- ・サービス利用の調整や他機関との連携が必要なケース
- ・サービス提供に困難が生じているケース など

- ・様式 2 - 2 は看護過程の展開にそって情報を整理し、それぞれの項目について具体的に書くこと（記入例 8）。
- ・看護記録の形式ではなく、報告書として文章を整え、A 4 用紙 1 枚にまとめる。
- ・「実践期間」欄は、実際に実践した期間を記入する。
- ・「看護の展開」欄は、個人情報保護に配慮する観点から個人を特定する情報（氏名、住所、生年月日、入院年月日、退院日など）は記載しない。例えば、入院年月日が令和 3 年 3 月の場合は、X 年 3 月と記載する。
- ・事例は看護実践が効果的であったと思われるもの、看護実践に課題が残ったもののどちらでも差し支えない。

## 記入例8

\*全ての項目を記入してください。

(様式2-2)

### 精神科看護実践事例報告書

あなたが直近の1年間にかかわった多様な課題を、実際に実践した看護を下記に記載してください。ただし、精神科以外に勤務している場合は、勤務時間に限定しません。記載にあたっては対象者の個人情報の保護に配慮してください。

出願者氏名	(自筆署名) 日精看 花子
実践を行った施設名	●●総合病院
実践期間	令和3年9月 ~ 令和4年1月
看護過程の展開	
ケースの概要	<p><b>年齢、性別、疾患名、これまでの経過など基本的な情報を簡潔に記述してください。</b></p> <p>A氏、60歳代後半の男性、疾患名は統合失調症。母親と二人暮らしで、母親はX年8月から病気のため入院中。一人で暮らすようになってから、近所の食堂やスーパーで独語をしている姿が目立つようになり、警察や保健所に近所の住民から相談があった。以降も同様の状態が続き、X年9月に突然、隣の家に怒鳴り込んで玄関を壊して警察を呼ぶ騒ぎになり、警官に連れられ受診し、そのまま入院となった。</p>
アセスメント	<p><b>看護上の問題の根拠について文章で記述してください。</b></p> <p>A氏は以前より、近隣に対して「近所で発生させている電磁波のせいで母親の具合が悪くなった」という被害妄想があり、病識が不十分であった。母親が服薬管理していた時は病状も安定し、引きこもりに近い生活をしていた。日常生活の全てを母親に依存しており、母親の入院によって服薬中断し、生活が破綻した。近隣住民は、A氏に対する不安を強く訴えており、自宅への退院に際しては調整が必要である。</p>
看護上の問題	<p><b>特に実践した看護上の問題を1~3つ程度挙げてください。</b></p> <p>#1 病識が不十分で服薬を継続することができない          #2 セルフケアが欠如しており、単身での生活が難しい          #3 自宅への退院に対して近隣住民の反対がある</p>
看護計画	<p><b>上記の看護上の問題を解決するために立てた看護計画を記述してください。</b></p> <p>#1: ①疾患や薬物療法に対する理解を促す心理教育を行う。          #2: ①セルフケアレベルをチェックする。②退院後の生活に必要なサービスや訪問看護などの導入を検討する。          #3: ①A氏に退院後の生活の思いを聞く。②退院後の支援者を調整しケア会議を開催。</p>
実施 (実践内容)	<p><b>実際に実践した内容を文章で記述してください。</b></p> <p>A氏の訴えを傾聴し、早期の信頼関係の構築に努めた。入院に至った経緯をA氏と振り返り、近隣住民の反応等も伝えた。その上で、今後の生活に関するA氏の希望を聞き、退院後に向け話し合った。心理教育に積極的に参加する等、退院に向けてA氏は努力したが、近隣住民の反対が強く外泊するのに時間を要した。そのため、保健師を交えたケア会議を開催し、入院中に2回外泊することができた。</p>
評価 (実施の結果)	<p><b>実施した結果、どのように変化したのかを文章で記述してください。</b></p> <p>生活の全てを母親に依存していたA氏は自分の生活をイメージするのが難しかったが、時間をかけて丁寧に聞いたことで具体的な看護計画が立案できた。近隣住民への対応は困難であったが、PSWと連携して保健師等の協力が得られた。</p>

自筆で記入

実際に実践した期間を記入  
 ここは、X年で表記しない

A氏、X年など、個人情報の保護に配慮して記載する

\*記入例を赤字で示しています

参考資料 和暦・西暦早見表

昭和元年	1926年
昭和2年	1927年
昭和3年	1928年
昭和4年	1929年
昭和5年	1930年
昭和6年	1931年
昭和7年	1932年
昭和8年	1933年
昭和9年	1934年
昭和10年	1935年
昭和11年	1936年
昭和12年	1937年
昭和13年	1938年
昭和14年	1939年
昭和15年	1940年
昭和17年	1942年
昭和18年	1943年
昭和19年	1944年
昭和20年	1945年
昭和21年	1946年
昭和22年	1947年
昭和23年	1948年
昭和24年	1949年
昭和25年	1950年
昭和26年	1951年
昭和27年	1952年
昭和28年	1953年
昭和29年	1954年
昭和30年	1955年
昭和31年	1956年
昭和32年	1957年
昭和33年	1958年
昭和34年	1959年
昭和35年	1960年
昭和36年	1961年
昭和37年	1962年
昭和38年	1963年
昭和39年	1964年
昭和40年	1965年

昭和41年	1966年
昭和42年	1967年
昭和43年	1968年
昭和44年	1969年
昭和45年	1970年
昭和46年	1971年
昭和47年	1972年
昭和48年	1973年
昭和49年	1974年
昭和50年	1975年
昭和51年	1976年
昭和52年	1977年
昭和53年	1978年
昭和54年	1979年
昭和55年	1980年
昭和56年	1981年
昭和57年	1982年
昭和58年	1983年
昭和59年	1984年
昭和60年	1985年
昭和61年	1986年
昭和62年	1987年
昭和63年	1988年
昭和64年	1989年
平成元年	
平成2年	1990年
平成3年	1991年
平成4年	1992年
平成5年	1993年
平成6年	1994年
平成7年	1995年
平成8年	1996年
平成9年	1997年
平成10年	1998年
平成11年	1999年
平成12年	2000年
平成13年	2001年
平成14年	2002年
平成15年	2003年

平成16年	2004年
平成17年	2005年
平成18年	2006年
平成19年	2007年
平成20年	2008年
平成21年	2009年
平成22年	2010年
平成23年	2011年
平成24年	2012年
平成25年	2013年
平成26年	2014年
平成27年	2015年
平成28年	2016年
平成29年	2017年
平成30年	2018年
平成31年	2019年
令和元年	
令和2年	2020年
令和3年	2021年
令和4年	2022年